

土浦まぢかど蔵「大徳」・「野村」が

国の登録有形文化財に登録されました



大徳呉服店と店の人達(大正10年頃)



まぢかど蔵「大徳」とスタッフ(現在)

■今に残る商都の名残

昨年、中城通りにある土浦まぢかど蔵「大徳(旧大徳呉服店)・野村(旧野村さとう店)」が、国の登録有形文化財に登録されました。

江戸時代から旧水戸街道の宿場町として発展した中城通りは、土浦の商業の中心地として栄えました。この界限には、県指定文化財の「矢口家住宅」をはじめとし、神社仏閣など歴史的な建物がいくつも残されており、江戸の情緒を今に伝えています。

■土浦まぢかど蔵「大徳」

「大徳呉服店」は、江戸中期に栄え、商都土浦の礎を築いたとも言われている呉服商「大國屋徳兵衛」の店舗兼住宅であった建物で、重厚な外観や建物細部の手の込んだ装飾などからも当時の栄華を偲ぶことができます。

今回、文化財として登録されたのは、店蔵(見世蔵)の北



まちかど蔵「野村」の煉瓦蔵

棟と南棟、袖蔵、元蔵、向蔵の5棟です。
 店蔵は、観光情報の発信、特産品の販売などを行う観光物産館、個展や発表会に使用できるギャラリーとして、袖蔵は、市の歴史や観光などを紹介する展示館として利用されています。
■土浦まちかど蔵「野村」
 江戸時代から続く老舗の商家であった「野村さとう店」は、明治時代以降、砂糖や水飴の卸問屋として栄えました。
 本格的な町家建築である主屋や、レトロな雰囲気を感じず煉瓦蔵などが連なっており、江戸から明治、大正と受け継がれた建物の歴史を感じることができます。

「野村」では、店舗兼主屋（母屋）、袖蔵、文庫蔵、煉瓦蔵の4棟が文化財として登録されました。
 こちらもギャラリーやイベントスペースとして折々に催しが行われ、訪れる人達を楽しませていきます。また、煉瓦蔵は喫茶店として改装され、訪れた観光客や、近隣住民の憩いの場となっています。
 土浦まちかど蔵「大徳」・「野村」では、観光ボランティアガイドによる観光案内を行っているほか、季節ごとのイベントや個展、発表会などが行われています。この機会に、ぜひ訪れ、土浦の歴史に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



観光ボランティアガイド



ギャラリーとしての活用



登録有形文化財の銘板

土浦の雛まつり

毎年2月から3月上旬にかけて、中城通りを中心に「土浦の雛まつり」が開催されます。今年も2月4日(土)から3月3日(金)にかけて行われ、色とりどりの雛飾りが訪れた人達の目を惹きました。

メイン会場のまちかど蔵では、土浦の商家に明治時代から伝わる雛人形をはじめとし、手作りのつるし雛や、ちりめん細工の雛人形、「かすみ人形」や創作雛などが展示されています。

り、江戸末期の蔵と調和した「和」の雰囲気を感じることができます。

